

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

中津市教育委員会施策の
点検・評価に関する報告書
(平成26年度対象)

平成27年8月21日

中津市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1.	目的	1
2.	点検・評価の実施方法等	1
(1)	法定事項	1
(2)	実施方法	1
3.	自己評価及び総合評価の判定基準	2
(1)	自己評価について	2
(2)	総合評価について	2
II	点検・評価	3
1.	施策名と評価一覧	3
2.	評価の分析	6
3.	施策毎の目標、達成状況等	7
(1)	表の見方	7
(2)	各施策の内容	8
III	学識経験を有する者の知見	48
IV	おわりに	51

I はじめに

1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

2. 点検・評価の実施方法等

(1) 法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務(教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。)の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

(2) 実施方法

①対象期間

平成 26 年度の管理・執行状況

②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、第四次中津市総合計画（平成 20 年 12 月策定）及び中津市教育振興基本計画（平成 21 年 3 月策定）に基づき各種施策を推進しており、平成 26 年度は重点的な 42 項目について点検・評価を行いました。

③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用に当たっては、教育委員や現職教員・事務局職員ではない者で、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（文教経済委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

3. 自己評価及び総合評価の判定基準

(1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の 3 つの着眼点で、5 段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成（80%以上）
4	着実に進捗（相当程度達成・79～60%）
3	やや不十分（59～40%）
2	不十分（39～20%）
1	抜本的見直しが必要（19～0%）

（2）総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

II 点検・評価

以下に、平成 26 年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

1. 施策名と評価一覧

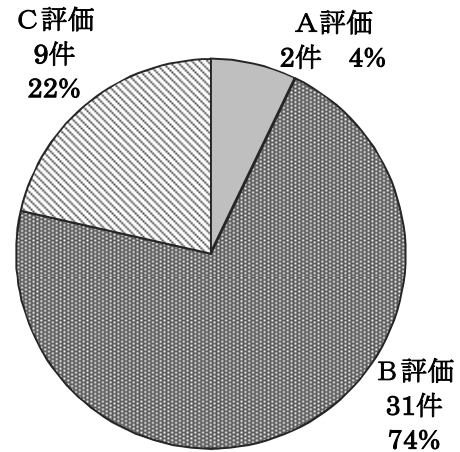
施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
教育委員会の充実	教育委員会の活性化	1 教育委員会活動の充実	4	B	教育総務課
	教育行政の推進	2 市民等の意見・要望の反映	4	B	学校教育課
施設設備 (学校施設の安全・安心な 環境整備)	学校施設耐震化対策及び学習環境の整備	3 耐震補強及びトイレ設備改修の計画的推進	5	A	教育総務課
学びの基礎を培う学校教育 (一人ひとりを大切にす る教育)	国際化教育	4 国際化に対応できる人材育成	4	B	学校教育課
	幼(保)小中(高)連携	5 幼稚園教育、預かり保育の充実	4	B	学校教育課
		6 小1プロブレム・中1ギャップの改善	4	B	学校教育課
	学力向上対策	7 授業改善による学力向上対策	3	C	学校教育課
		8 小中連携による学力向上対策	4	B	学校教育課
		9 学びのススメ塾・学びのススメ英検塾	3	C	学校教育課
		10 地域の教育資源の活用推進	5	A	学校教育課
		11 情報教育の推進	3	C	学校教育課
	不登校ゼロの学校づくり	12 不登校未然防止と適応指導教室の充実	4	B	学校教育課
		13 いじめ問題対策	4	B	学校教育課
	特別支援教育の充実	14 教育補助員の拡充	4	B	学校教育課
	授業力向上	15 教職員研修の充実	4	B	学校教育課
	学校適正規模・適正配置の指針検討	16 小規模小学校適正配置の検討	3	C	耶馬溪教育 C 教育総務課

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学校と家庭の連携	家庭教育の充実	17 P T Aとの連携強化	3	C	学校教育課
		18 生活習慣、学習環境、 家庭学習	3	C	学校教育課
		19 家庭教育力の向上	3	C	社会教育課
施設設備 (その他の施設整備)	コミュニティー センター	20 コミュニティーセン ターの計画的建設	4	B	社会教育課
学びつづける生涯学習 (郷土に誇りを持つ市民)	中津市地域協育 振興プラン推進 事業	21 中津市地域協育振興 プラン推進事業	4	B	社会教育課
		22 放課後こども教室 (土曜教室、放課後 チャレンジ教室)	4	B	社会教育課
	「郷土愛教育」循 環システムの構 築	23 ワンパク！たんけん 中津	4	B	社会教育課
		24 なかつキッズ・サイ エンス	4	B	社会教育課
		25 三保小学校人形劇ク ラブの育成	4	B	社会教育課
		26 福澤諭吉記念事業	4	B	社会教育課
		27 公民館活動における 地域のふるさと学習	4	B	社会教育課
		28 中津市生涯学習大学 「中津学」	3	C	社会教育課
		29 なかつ学びんぴっく (子ども中津検定)	4	B	社会教育課
		30 偉人シリーズ、マン ガ本の発刊	4	B	文化財課

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
文化芸術の香るまち (文化・芸術活動の推進)	図書館の充実	31 利便性の向上	3	C	小幡記念 図書館
		32 学校図書館との連携	4	B	小幡記念 図書館
	文化・芸術活動の推進	33 芸術文化事業 (木村記念美術館)	4	B	小幡記念 図書館
	歴史、文化の継承	34 展示施設の計画的な 整備と利用促進	4	B	文化財課
	旧城下町地区史跡 等活用	35 史跡等整備工事、説 明板・誘導サイン設 置、中津城イベント 実施	4	B	文化財課
健康づくり (生涯にわたるスポーツ 振興「心豊かで健康な生活 を」)	スポーツ施設の充 実	36 スポーツ施設の計画的な 整備	4	B	体育・給食課
		37 スポーツ施設の利用 促進	4	B	体育・給食課
	スポーツの振興	38 生涯スポーツの推進	4	B	体育・給食課
	学校保健・体育の充 実	39 学校保健・体育環境 の充実	4	B	学校教育課
健康な体づくり (安全安心でおいしい学 校給食)	地産地消の推進	40 生産者(団体)との 連携	4	B	体育・給食課
	食育の推進	41 児童生徒、保護者へ の啓発	4	B	体育・給食課
	施設・設備の改修	42 全調理場のドライシ ステム化及び機械、 器具等の更新	4	B	体育・給食課

2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価2件、B評価31件、C評価9件となりました。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。その結果、評価ランクの割合は、A評価への到達は昨年度1施策から、2施策へと増加しております。

「耐震補強及びトイレ設備改修の計画的推進」では、文部科学省が目標年次としていた平成28年度より2年早く、対象施設の耐震化率100%を達成しております。

また、「地域の教育資源の活用推進」においては、社会教育課と学校教育課が連携した横断的な取り組みが評価されています。

今後も、より高い目標の達成を目指し、施策の設定及び評価を継続していきたいと考えています。

3. 施策毎の目標、達成状況等

(1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	教育委員会の充実	A	教育委員会の活性化
		B	教育行政の推進
2	施設設備（学校施設の安全・安心な環境整備）	C	学校施設耐震化対策
3	学びの基礎を培う学校教育 （一人ひとりを大切にする教育）	D	国際化教育
		E	幼（保）小中（高）連携
		F	学力向上対策
		G	不登校ゼロの学校づくり
		H	特別支援教育の充実
		I	授業力向上
J	学校適正規模・適正配置の指針検討		
4	学校と家庭の連携	K	家庭教育の充実
5	施設設備 （その他の施設整備）	L	コミュニティーセンター
6	学びつづける生涯学習 （郷土に誇りを持つ市民）	M	中津市地域教育振興プラン推進事業
		N	「郷土愛教育」循環システムの構築
7	文化芸術の香るまち （文化・芸術活動の推進）	O	図書館の充実
		P	文化・芸術活動の推進
		Q	歴史、文化の継承
		R	旧城下町地区史跡等活用
8	健康づくり （生涯にわたるスポーツ振興「心豊かで健康な生活を」）	S	スポーツ施設の充実
		T	スポーツの振興
		U	学校保健・体育の充実
9	健康な体づくり （安全安心でおいしい学校給食）	V	地産地消の推進
		W	食育の推進
		X	施設・設備の改修

(2) 各施策の内容

No	分類			目 標
	大	中	小	
1	1	A	教育委員会活動の充実	<p>定例教育委員会は毎月開催、臨時教育委員会、教育委員懇話会及び教育委員勉強会は、必要に応じて随時開催している。</p> <p>年間2回、定例教育委員会を移動教育委員会として、各支所輪番で開催している。</p> <p>(平成25年度 12月…三光支所、1月…本耶馬溪支所)</p> <p>また、定例教育委員会開催後には、内容をホームページで紹介している。</p> <p>今までの取り組みは継続しつつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校訪問と別に小中学校長やPTAとの意見交換会の開催 ○社会教育委員など各種委員会との意見交換会の開催 ○先進地視察など研修機会の拡充を図る。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○毎月1回の定例教育委員会を開催し、会議に諮られた議案(60件)及び報告(28件)等について、教育委員による活発な意見出しや質疑を行うとともに、諮られた案件について指導・指示し、案件の可決・了承を行った。また、喫緊の案件については、その都度、臨時教育委員会を開催し(3回)、速やかにその対応を実施した。</p> <p>○教育委員会開催時には、原則公開として開催予定を広報するとともに、傍聴希望者(19人)については入室を許可した。</p> <p>また、様々な方が容易に傍聴できるよう、市庁舎外での会議開催(耶馬溪支所 7/27, 山国支所 12/21)にも取組むと共に、会議録の開示希望者については原則公開(2件)した。</p> <p>○教育行政を推進するにあたり必要に応じ、事務局等が行う事業の事前説明を求めると共に進捗状況等において、課題や対応・目途等の説明を求め、事業の現状把握と方向性の指導・指示を行った。</p> <p>○5月と11月に、教育委員が分担して、幼稚園、小・中学校を訪問し、各園・学校の現状や取組みを視察し意見を交換した。</p> <p>○校長会理事会(4/24)との意見交換会及び社会教育委員(3/6)との合同研修会を実施した。</p> <p>○大分県市町村教育委員連合会総会(津久見市:6/6)に参加し、「グローバル人材の育成」について、受講した。</p> <p>○西日本ブロック市町村教育委員会研修協議会研修会(10/14、15)に出席し、新教育委員会制度や各教育委員会の先進取組み事例について聴講した。</p> <p>○太宰府市教育委員会(市立水城小学校)を視察(11/11)し、「学び合いの学習」について研修を行った。</p> <p>○従来の「市報なかつ」、HPでの告知に加え、広報広聴課発行の「例月行事予定表」に掲載を行った。また、移動教育委員会開催の際には、これとは別に地域に回覧板でお知らせを行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○平成27年度からは総合教育会議が設けられ、市長との対話の機会が増えることとなり、市長と教育委員会が、相互に連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進して行く。</p>	4	B	教育総務課

No	分類			目 標
	大	中	小	
2	1	B	市民等の意見・要望の反映	<p>開かれた学校づくりや市の教育行政を推進するとともに、保護者や地域との積極的な連携を図るため、以下のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の自己評価及び学校関係者評価を積極的に公表する。 ○中津市教育委員会のホームページを一層充実させる。 ○各学校ホームページの更新徹底と情報セキュリティ保持について適切に指導する。 ○地域住民や保護者及び学校現場からの意見や要望に対して真摯に対応し、関係部局とも連携を取りながら対処する。
3	2	C	耐震補強及びトイレ設備改修の計画的推進	<p>学校施設耐震化の早期実施に向け、学校施設耐震化推進計画に則り計画的に耐震化を推進し、耐震化に併せて、トイレ設備改修の必要性を見極め、改修を行う。また、空調設備を設置し、園児、児童、生徒にとって学習に望ましい学びの環境を提供することで、安全で安心して学べる教育環境の整備を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○如水（棟番⑥-1, ⑥-2, ⑱）・今津（棟番①）・沖代（棟番①）小学校舎の耐震補強及びトイレ設備改修、城井（棟番①）、津民（棟番①-1, ①-2, ⑤）小学校舎の耐震補強、緑ヶ丘（棟番⑥, ⑧, ⑨）中学校舎の耐震補強及びトイレ設備改修、南部（棟番①）、小楠（棟番②）幼稚園舎の耐震補強及びトイレ設備改修を行う。また、併せて改修を行う幼稚園、小中学校の普通教室及び特別教室のすべてに空調設備設置を行う。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○各学校は学校評議員制度を効果的に活用し、保護者や地域からの意見を把握するなどして学校運営の改善に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会開催回数（年間4回以上5校、年間3回25校、年間2回2校） ・第三者評価についての調査研究を主幹教諭配置校（小3校、中2校）で実施した。 <p>○積極的な情報提供のために学校ホームページの更新を月1回程度行った。</p> <p>○市教委として、「学校教育の動き」を毎月2回程度更新し、学校行事などでの子どもたちの活動を中心に積極的な情報提供を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○地域や保護者との連携促進のため、学校評価の公表を含め、学校のホームページをより一層充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> →更新状況の定期的確認及び情報セキュリティー対策 <p>○地域や保護者の要望や意見に対しては、関係部局とさらに連携を取りながら前向きに対処していく。</p>	4	B	学校教育課
<p>○平成26年10月9日事業完了 城井（棟番①）小学校校舎</p> <p>平成26年10月10日事業完了 如水（棟番⑥-1, ⑥-2, ⑱）・今津（棟番①）・沖代（棟番①） 城井（棟番①）・津民（棟番①-1, ①-2, ⑤）小学校校舎 緑ヶ丘（棟番⑥, ⑧, ⑨）中学校校舎</p> <p>○耐震化率 100.0% 対象施設 全て耐震化完了</p> <p>○「中津市公共建築物等における地域材の利用の促進に関する基本方針」を踏まえ、内装木質化など活用できる部分について、活用を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○耐震補強完了後は、非構造部材の耐震化、トイレの改修及び空調設備設置を行い、児童生徒の安全安心と学校生活環境の改善をさらに進めて行く。</p>	5	A	教育総務課

No	分類			目 標
	大	中	小	
4	3	D	国際化に対応できる人材育成	<p>国際化に対応できる人材育成のため、幼稚園から中学校までALTやNETを活用して、ネイティブの英語に触れる機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業での外国語活動 <ul style="list-style-type: none"> →幼稚園（週1回） 小学校1～4年（月1回）、小学校5～6年（週1回）、 中学校1～3年（週1回程度） →各教科、領域でのALTやNETの積極的活用 ○授業以外での外国語活動 <ul style="list-style-type: none"> →給食時間、昼休みなどでの触れ合い活動やDVD視聴、朝読書での読み聞かせ等 ○長期休業中のALTによる活動 <ul style="list-style-type: none"> →「中津わくわく英語広場」の実施
5	4	E	幼稚園教育、預かり保育の充実	<p>幼稚園教育、預かり保育の充実を図り、保護者から信頼される魅力ある幼稚園教育を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある教育課程の編成、保育所や小学校との連携交流、体験活動の重視や地域資源（ひと・もの・こと）の活用、保護者との連携による基本的な生活習慣を確立する。 ○研修内容を充実し、教職員の指導力及び資質の向上を図る。 ○保護者の利便性向上を図るため、全11園にて18:00までの預かり延長を実施する。 ○教育活動をホームページで紹介し、入園受付や説明会をさらに工夫し、啓発活動を推進する。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○授業での外国語活動 ALT (NET) を活用し、幼稚園 (週 1 回)、小学校 1~4 年 (月 1 回)、小学校 5~6 年 (週 1 回)、中学校 1~3 年 (週 1 回程度) の活動を計画的に実施する等、各教科、領域での取組を実践することができた。</p> <p>○授業以外での外国語活動 豊田小での実践 (「豊田小モデル」→英語絵本読み聞かせ、ワンポイント英会話、昼休みの「英語ひろば」、英語ルームの整備など 今津中での実践 (学びのススメ英検塾への積極的参加、英検受験の意識高揚、校内英語スピーチ大会の実施など) その他、給食時間や昼休み等での英語に触れ合う活動を実践することができた。</p> <p>○中津わくわく英語広場 夏季休業中 (中学生 9 名参加) …英会話練習、史跡フィールドワーク、スカイプ交流など。 冬季休業中 (小学生 25 名参加) …英会話練習、オリジナル羽子板づくり、ポスターづくりなど。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○「毎日英会話に親しむ環境づくり」を推進する。 ○「豊田小モデル」を市内小学校へ、「今津中モデル」を市内中学校へ拡大させる。 ○グローバルリーダー育成のため短期留学を実施する。 ○「小中高連絡協議会」を開催し、グローバルな人材育成のための連携体制を構築する。</p>	4	B	学校教育課
<p>○各園で小学校との交流がなされている。一部の保育所園では、小学校への合同見学会などが実施されるようになった。(連続性のあるカリキュラム作成、遠足・運動会での交流、小学校体験、職員間の情報共有など)</p> <p>○年 2 回市主催の研修会を開催している。</p> <p>○平成 26 年度実績 (5 月 1 日) →就園率 43.5% (前年比 1.8%増) 預かり率 59.6% (前年比 11.3%増)</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○今津幼稚園・今津小学校でのアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムを参考に、「小 1 プロblem 対策推進事業」の成果を還元し、教育内容の接続を図る教育課程の編成を充実させる。 ○子育て支援の一層の充実を図るため、全 11 園にて 18:00 までの預かり延長を継続する。 ○学校教育課にて、幼稚園のホームページ作成を一層充実させる。</p>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
6	3	E	小1プロブレム、中1ギャップの改善	<p>幼保小中の円滑な接続を図り、小1プロブレムの発生を抑え、中1ギャップを解消する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園・小学校の接続を図る教育課程の編成を実施し、その効果検証を図る。 ○「小1プロブレム対策推進事業」の成果を市内に還元する。 ○各中学校ブロックでの小中連携の内容充実を図る。
7	3	F	授業改善による学力向上対策	<p>「学び合いのある授業づくり・1時間完結型授業・板書の工夫・ノート指導」の実践をこれまで以上に浸透させ、教科で身につけるべき力（教科の本質）を定着させる。</p> <p>また、低学力層の底上げ、基礎基本の定着、活用する力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究主任会議を一層充実させ、各学校の校内研修を活性化させる。 ○校内研修会等への指導主事、学校指導専門員の積極的な参加による指導・助言の継続。 ○学力向上支援員5名、習熟度別少人数指導推進員5名などにより授業改善の推進を図る。 ○学習補助員（10名配置）の効果的な活用 ○国際化に対応できる子どもの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ALTによる早い段階での外国語に慣れ親しむ取り組みをする。（幼稚園全園週1回実施・小学校1～4学年月1回程度実施など） ○読書活動の充実と調べ学習に対応できる図書館づくり <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書20名を配置する。（専任校8校、兼任校24校） ・学校図書館の充実、読書活動の推進、学習活動の支援、心の居場所づくりを行う。（県派遣の学校図書館コーディネーターの活用・学校図書館ボランティアの派遣） ○市基礎基本定着調査の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・小2～5、中1～3年で実施（小6は中学校入学時に実施）（その学年で身につけるべき基礎的な知識・技能の確実な習得…フォロー学習）

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○今津小学校では、これまでの幼保小連携の成果を取り入れた接続期の教育課程（1年生スタートカリキュラム）を継続実施した。入学後の1年生がこれまで以上に円滑な小学校生活を始めることができた。</p> <p>○「小1プロブレム対策推進事業」の成果等を「中津市幼保小連携に係る研修会」「中津市幼保小連携協議会」において報告し、連携推進につなげた。</p> <p>○小中連携では、相互の授業参観や職員の合同研修の場が増加。また、PTAの合同研修会を実施する学校ブロックも増えた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「小1プロブレム対策推進事業」の成果を還元を行ったり、「中津市幼保小連携協議会」を引き続き効果的に開催することで、幼保小の連携や交流を深め、小1プロブレム解消を目指す。</p> <p>○引き続き、「幼保小連携担当」を小学校の校務分掌に位置づけ、計画的な取り組みを行う。</p> <p>○小中連携の意識を更に高め、授業交流や生徒指導面での情報交換を一層充実させる。</p>	4	B	学校教育課
<p>○子どもにとってわかりやすい授業として、板書やノート指導の工夫が多く、多くの学校でなされるなど、小学校中心に授業改善に取り組む学校が増加している。</p> <p>○県基礎基本定着調査や全校学力調査結果から見ると、小学校で成果が見られるが中学校では伸び悩みの状況である。</p> <p>→平成26年度全国学力学習定着状況調査 小学校…全ての教科で平均正答率が県及び全国平均を上回る（平成21年度以降初めて） 中学校…全ての教科で平均正答率が県及び全国平均を下回る（3年連続）</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「中津市教育課程研究協議会」の活性化により、教科研究の充実、推進を図る。</p> <p>○中津市授業改善モデル校（中学校5校）における授業改善の取り組みを推進する。</p> <p>○生徒指導の3機能を生かした課題解決型の授業づくり及び1時間完結授業・板書の工夫・ノート指導の充実を図る。</p> <p>○習熟度別指導、個別指導、NPO法人との連携による補充授業や英語検定指導、学校図書館を活用した授業づくりなどに取り組み、低学力層の底上げ、基礎基本の定着、活用する力の育成の一層の充実を図る。</p>	3	C	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
8	3	F	小中連携による学力向上対策	<p>全中学校ブロックで「小中連携会議」、「相互授業参観」及び「授業交流」などを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中連携会議、授業交流（小中学校の教員乗り入れ授業）、授業研究会への相互参加、小中合同研修会を継続して実施し、学力向上を推進する。 ○研究主任会議を一層充実させ、各学校の校内研究を活性化させる。 ○学校指導専門員を積極的に活用し、小中連携による学力向上を推進する。 ○家庭へ対して「家庭学習の手引き」の周知徹底を図るとともに、学活などを通して随時指導する。
9	3	F	学びのススメ塾・学びのススメ英検塾	<p>学びのススメ塾により、小中学生の基礎基本の定着を支援し、学びのススメ英検塾により、中学生の英検（3・4・5級）の取得を目指す。</p> <p>NPO法人「学びの共同体」と連携して下記の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長期休業中（夏休み5日・冬休み3日・春休み2日）に2時間程度、基礎基本の定着を目指す小中学生を対象に補充学習を実施する。 ○毎週水曜日の放課後に1時間程度、英検取得を目指す中学生を対象とした補充学習を実施する。 ○講師の充実など、NPO法人との連絡調整を充実させる。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○「小中連携会議」「相互授業参観」は全ての小中学校で実施された。</p> <p>○中学校教員が小学校で授業を行う「授業交流」は継続して実施された。 ※兼務発令などを行い積極的に実施しているのは今津中学校区など</p> <p>○小中の教職員の合同研修会を行う中学校ブロックが増加。研究主任会の中でブロックごとの協議の時間を設定し、定期的な情報交換につなげている。</p> <p>○「今津小・今津中」、「三郷小・山国中」で積極的な小中連携が行われた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「小中連携会議」及び「相互授業参観」「授業交流」などを一層充実させる。</p> <p>○中学校モデル校を活用したネットワークによる授業改善を行う。 (モデル校中学校5校、連携研究小学校5校)</p> <p>○小中学校で作成されている「家庭学習の手引」を活用することで、児童生徒の生活習慣について保護者と積極的に協議を行う。</p>	4	B	学校教育課
<p>○学びのススメ塾（小学校…国・算 中学校…英・数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小5年生対象→参加率 春休み 47.5% (4.5%増) 夏休み 45.8% (2.8%増) 冬休み 28.3% (8.7%減) ※夏は4～6年生対象 ・中2年生対象→参加率 春休み 14.9% (1.1%減) 夏休み 12.8% (0.8%増) 冬休み 19.8% (7.8%増) ※夏は1～3年生対象 <p>○学びのススメ英検塾（中学生対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3級受講者 36名（14減）→ 受験者26名 合格者23名（合格率88.5%） ・4級受講者 80名（120減）→ 受験者18名 合格者14名（合格率77.8%） ・5級受講者 112名（25増）→ 受験者38名 合格者37名（合格率97.4%） <p>○講師数（学びのススメ塾）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春休み（NPO講師33名） 夏休み（NPO講師12名＋地域ボランティア38名） 冬休み（NPO講師42名） <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今後も「学びのススメ塾」を、学校事情に応じた柔軟な対応が可能な事業にする。</p> <p>特に、小学校での夏休みは、学校の主体性を重視した取組みとする。</p> <p>○児童養護施設（ヨゼフ寮、清浄園）への出前教室を実施する。</p> <p>○NPO法人との定期的な情報交換、連絡調整を実施する。</p> <p>○「学びのススメ英検塾」は、受講者及び英検受験者の増員に向けた取組みを行う。</p>	3	C	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
10	3	F	地域の教育資源の活用推進	<p>中津市にゆかりのある郷土の偉人福澤諭吉などについて、詳しく知り、地域の伝統・文化を学び、そこに生きるすばらしさを実感し、郷土に誇りをもち、「ふるさとなかつ」を語れるような児童・生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中津市の郷土の偉人（福澤諭吉など）に関する読書感想文・画コンクールを行う。 また、各学校は地域の人材を活用した取り組みを実践する。 ○社会教育課と連携した「なかつスクスクプロジェクト」が円滑に取組まれるために、各学校で「地域協育担当教員」による活動を充実させる。 ○地域教材「私たちの中津市」を活用した授業実践を一層推進する。 ○「まちなみ歴史探検」事業を積極的に活用する。
11	3	F	情報教育の推進	<p>各学校において、パソコン教室を利用することで情報教育の推進が行われているが、十分に活用できていない状況である。</p> <p>タブレットを効果的に活用することにより、個に応じた学習形態の幅が広がり、学習効果の向上が期待できることから、タブレットの効果的な活用推進のために、今後の方向性を策定するとともに、モデル校において試行及び検証を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「タブレット活用推進委員会」を設置し、活用に向けての方向性、機種を選定、活用モデル校の選定などを行う。 ○モデル校での検証を実施する。 ○ICT支援員、ヘルプデスクの積極的な活用を推進する。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○本年度も読書感想文・画コンクールを実施し、小中学生から78点の応募があり、内容的にも充実してきた。</p> <p>○「地域協育担当教員」を全ての小中学校の校務分掌に置き、地域の人材を活用した取組みを教育課程の中に位置づけて実践している。</p> <p>○地域教材「私たちの中津市」については、各小学校において社会科の時間に活用されている。</p> <p>○全ての小学校において「まちなみ歴史探検」事業が定着し、積極的に活用されている。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○中津市歴史民俗資料館や福澤旧居等をはじめとする地域文化施設を活用した学習を推進する。まちづくり推進室と連携し、小学校6年生を対象とした「まちなみ歴史探検」事業を継続して活用する。</p> <p>○「なかつスクスクプロジェクト」と連動し、各校区の公民館を拠点とする「協育ネットワーク」を活用した学校支援をさらに推進する。</p> <p>○総合的な学習の時間において、地域の特色を生かした学習を推進する。 ・学力向上支援教員（総合担当）による探求型単元プランの開発</p>	5	A	学校教育課
<p>○「タブレット活用推進委員会」を設置したが、十分な検討ができなかった。</p> <p>○モデル校3校（山口小、大幡小、東中津中）で検証実施。 （平成26年度3学期より）</p> <p>○ICT支援員、ヘルプデスクを積極的に活用することができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「タブレット活用推進委員会」を定期的に開催し、今後の導入計画、効果的な活用方法、機種選定などについて、検討を行い、方向性を示す。</p> <p>○検証校を新たに2校（南部小、鶴居小）増やし、検証を継続する。</p> <p>○小中の特別支援学級でのタブレット活用を推進する。 （各クラス2台配置）</p>	3	C	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
12	3	G	不登校未然防止と適応指導教室の充実	<p>現在、各学校では当該児童生徒の個票を作成し、指導経過を明らかにして支援に生かしている。</p> <p>また、毎週、連絡票を市教委に報告することにより、早い段階（登校しぶり状況）で市教委指導主事の訪問、適応指導教室指導員の相談等の支援につなげている。</p> <p>不登校（不登校を理由に年間30日以上欠席）の児童生徒数の減少を目指し、不登校の未然防止として、魅力ある学校づくり（授業づくり・学び合い・仲間づくり）を一層推進する。</p> <p>（※目標値として、小学校出現率0.35%、中学校出現率2.5%）</p> <p>○適応指導教室事業を活用した教職員の研修（適応指導教室担当指導主事を学校に派遣など）を実施するよう各学校に働きかける。</p> <p>長期欠席者について個票を作成し、指導経過を明確にし、組織的に支援する。学校指導専門員、不登校対応指導員、不登校対応嘱託員の活用を図る。</p> <p>○登校渋りの段階での早期対応を学校と連携して積極的に行う。</p>
13	3	G	いじめ問題対策	<p>「学校いじめ防止基本方針」、「中津市いじめ防止基本方針」などに基づく、いじめの未然防止及び組織的な対応を徹底し、解消率100パーセントを目指す。</p> <p>○学校において、いじめ防止のための取組み、早期発見・早期対応の在り方、教育相談体制、生徒指導体制、校内研修などについて定め、具体的な対応を取る。</p> <p>○各学校において、「学校いじめ防止基本方針」を策定する。</p> <p>○「中津市いじめ防止基本方針」の策定と周知徹底を図る。</p> <p>○解消が困難な事案については、必要に応じて学校問題支援アドバイザー（弁護士）より適切な指導・助言を受けることで、解消につなげる。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○平成 26 年度（平成 27 年 3 月 31 日現在）、不登校（不登校を理由に 30 日以上欠席）の状況にある小学生は 7 名（前年度比 10 名減）で、中学生は 69 名（前年度比 6 名増）である。（出現率は小学校 0.25%、中学校 2.88%）</p> <p>○各学校では、毎週連絡票を市教委に報告することにより、欠席の子どもをより意識するようになってきた。</p> <p>また、早い段階（登校しぶり状況）での市教委指導主事の訪問、適応指導教室指導員の相談等を行い、支援につなげることができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○不登校の未然防止に努める。（生徒指導 3 機能を生かした授業改善による魅力ある学校づくり推進）</p> <p>○長期欠席者について個票を作成し、指導経過を明確にし、組織的に支援することを継続する。 →「あったかハートなかつ」の実践</p> <p>○適応指導教室を中心に学校指導専門員、不登校対応指導員、不登校対応嘱託員の活用を推進する。</p> <p>○関係機関と連携した効果的な支援体制を早期対応の段階で機能させる。</p> <p>○地域不登校防止推進教員配置事業（豊陽中配置）を活用する。</p>	4	B	学校教育課
<p>○平成 26 年度（平成 27 年 3 月 31 日現在）の認知件数は、小学校 493 件（うち解消 489 件・解消率 99.2%）、中学校 59 件（うち解消 58 件・解消率 98.3%）となっている。</p> <p>○「中津市いじめ防止基本方針」策定（平成 26 年 9 月）及び周知徹底を行った。また、「中津市いじめ問題対策連絡協議会」及び「いじめ問題専門委員会」を設置した。（平成 27 年 1 月）</p> <p>○学校問題支援アドバイザー（弁護士）による支援体制を随時行った。（いじめに関する相談件数 7 件）</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○学校においては、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止やいじめの早期発見・早期対応の在り方、教育相談体制、生徒指導体制、校内研修などについて、より具体的な対応を取る。</p> <p>○「中津市いじめ防止基本方針」に基づき、各学校へ適切な指導を行う。</p> <p>○「中津市いじめ問題対策連絡協議会」及び「いじめ問題専門委員会」を機能させる。</p> <p>○解消が困難な事案対応については、学校支援チーム（市教委）による支援体制を充実させる。</p> <p>○必要に応じて学校問題支援アドバイザー（弁護士）や専門委員会より適切な指導・助言を受けることで解消につなげる。</p>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
14	3	H	教育補助員の拡充	<p>中津市において、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒が増加傾向にあり（通常学級に小 6.45%、中 3.4% 在籍）、現在、個別の支援が必要な子どもに対して、「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」を作成し、担任と教育補助員で連携しながら教育にあたっている。（平成 25 年度 48 名）</p> <p>今後も特別支援の必要な幼児・児童・生徒に対しては、校内支援体制をさらに充実し、配置されている教育補助員を一層効果的に活用する。（平成 26 年度 51 名…幼小中 50 名＋市民病院 1 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「個別の指導計画」を作成し、各学校においてコーディネーターを中心に関係機関及び家庭と連携した支援を進める。 ○教育補助員の適切な配置と充実を図る。（担任との連携体制） ○教育補助員の資質向上のための特別支援教育研修会の内容を一層充実させる。
15	3	I	教職員研修の充実	<p>教職員研修として、講師招聘による授業研究会や教職員研修を実施するとともに指導主事、学校指導専門員による学校訪問を行っている。</p> <p>これらの活動を通して、学校訪問教職員の O J T（職務を通じた能力開発）、人材育成、資質向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中津市授業研究会 <ul style="list-style-type: none"> ・教科研究をベースにした講師招聘（授業観察・指導助言・講演） →年 2 回 ○学校支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・大分大学伊藤安浩氏の招聘（授業観察・指導助言） →年 15 回 ○先進地研修 <ul style="list-style-type: none"> ・全国レベルの実践校への視察（小中 30 名） ○校内研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事（市・県）、学校指導専門員の積極的な参加（指導助言） ○中津市教育振興協議会の教科部会の活性化 ○臨時講師へ対する研修（市教委主催）

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○「個別の指導計画」は、特別支援学級在籍の児童生徒全員（114名）に作成できた。PDCAサイクルで学期毎に修正し、次学期の適切な支援につなぐことができている。</p> <p>○教育補助員の配置→幼4名、小30名、中16名、市民病院1名の計51名</p> <p>○教育補助員の研修（年4回実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援の在り方や各校（園）の取り組みの交流、効果的な支援方法についての研修 <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○通常学級では、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒を中心に据えた授業改善（ユニバーサルデザイン）に教育補助員と連携して取り組む。</p> <p>○教育補助員の資質向上のために、特別支援教育研修の更なる充実を図る。</p> <p>○教育補助員の増員及び質の向上に努め、効果的な活用を図る。</p>	4	B	学校教育課
<p>中津市授業研究会2回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回→田村学氏（文科省調査官）による総合的な学習の時間についての研修（参加者約120名） ・第2回→内海真理子氏（県教委義務教育課）による学校図書館を活用した課題解決型授業についての研修（参加者約150名） <p>○学校支援事業→伊藤教授の招聘校9校</p> <p>○先進地視察研修に15校30名が参加する。</p> <p>○指導主事や学校指導専門員等による学校訪問は延べ200回以上であり、全ての学校において指導・助言を行った。</p> <p>○臨時講師の資質・能力向上のための研修実施（年間6回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数36名→採用試験合格者（小6名、中3名） <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○中津市授業研究会、先進地視察、指導主事や学校指導専門員による学校訪問（校内研修参加）を継続して実施することで教職員研修の一層の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察は中学校授業改善モデル校の教員派遣 →目的や使命の明確化 <p>○「中津教師義塾」を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> →中堅教員を中心とした学校マネジメント研修 <p>○臨時講師研修を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> →内容の充実を図る <p>○新設「中津市教育課程研究協議会」による教科部会活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> →教職員の意識改革 	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
16	3	J	小規模小学校適正配置の検討	<p>耶馬溪教育センター管内の児童数は平成26年度136名であり、5年後を推計した場合には96名(平成31年度)となることが想定される。よって、耶馬溪地域内小学校4校を1校に再編し、小・中連携の強化を図るべく耶馬溪中学校敷地内に新たな小学校を新設し、開校を目指している。</p> <p>○現状と将来の教育のあり方を耶馬溪地域全体の問題として議論していただき、引続き、教育委員会の方針について理解を求めていく。(1校案を基本とした過渡的2校案) なお、各校区のPTA及び耶馬溪地区保護者会が抱える不安材料等(学校建設場所及び運動場使用、通学方法等)の解消に取り組む。</p>
17	4	K	PTAとの連携強化	<p>PTAと連携して、人づくりの基盤である家庭教育の充実を図る。</p> <p>○PTA総会、授業参観日、中学校統一学校公開日の持ち方を工夫する。 ・各小中学校のPTA総会参加率アップ(小70%・中40%) ・中学校統一学校公開日の参加者アップ(1,500名以上)</p> <p>○開かれた学校づくりを推進する。 ・学校公開日の設定・学校評議員制度及び学校評価の充実・なかっスクスプロジェクトの活用・学校ホームページの充実</p> <p>○目標協働達成校(3校)での実践。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○5月に山移小学校保護者との話し合いを行った。統廃合の判断材料がもつとほしいとのことだったので、統廃合を経験した保護者との懇談を計画したが、調整がうまくいかず実現できなかった。</p> <p>○個別に、統廃合に対する思いや不安材料などについて聞き、放課後児童クラブやスクールバスについて、情報を伝えることができた。</p> <p>○2月に、再度保護者会との話し合いを行い、教育長より今後の方針について理解を求めた。</p> <p>○津民小学校の保護者とは、今年度は、統廃合についての具体的な話をすることができなかった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○引き続き、学校の適正規模について、保護者に理解を求めるための懇話会を開催していく。また、小学校統廃合のメリットデメリットなどを紹介し、地域・保護者・行政の三者で共に考えていく。</p>	3	C	耶馬溪教育C 教育総務課
<p>○PTA総会参加率は、小学校で増(69.2%→70.5%)、中学校で減(37.4%→32.8%)、小中全体で減(58.5%→57.8%)である。</p> <p>○中学校統一学校公開日参加数は、1,360名(前年度比+8名)であった。</p> <p>○学校ホームページの更新がほぼ全ての学校で最低月1回程度行われている。</p> <p>○目標協働達成校(3校)の今津小・中において、土曜学習が定着した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○PTA総会、授業参観日、中学校統一学校公開日の持ち方をさらに工夫する。</p> <p>○目標協働達成校3校(今津小・今津中・城北中)での取組を継続し、家庭・地域が能動的に学校と協働する取り組みを進める。 ・土曜学習の拡大(城北中での実施)</p>	3	C	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
18	4	K	生活習慣、学習環境、家庭学習	<p>テレビ視聴時間、ゲーム時間が多く、学習時間が少なく、家庭学習の定着不足となっているため、モデル地域を指定し、地域と連携して人づくりの基盤である家庭教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣、テレビ・ゲーム時間の調節、家庭学習の習慣づけなどについて小中で連携して指導する。（「生活習慣意識調査の数値を県平均に近づける） ○各学校作成の「家庭学習の手引き」を、保護者へ周知徹底するとともに効果的に活用する。 ○小中連携と公民館活動の活性化を絡めた取組の実践（今津校区） ○目標協働達成校（3校）での実践に取り組む。
19	4	K	家庭教育力の向上	<p>子どもの基本的な生活習慣が欠如しているといわれる要因の一つとして、家庭の教育力の低下があげられる。特に幼少期における「しつけ」は、その後の子どもたちの学力、体力の向上や道徳心の醸成に大きな影響を与えることになる。</p> <p>学校教育活動の整備や地域の教育力の活用などが子どもの育成に効果的に結び付くためには、家庭教育力の向上が不可欠であると考えますが、その具体的な手立てができていないのが現状である。</p> <p>そのため、「しつけ」に関して関係部局と連携をして、家庭の教育力向上のための家庭教育支援システムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援課、地域医療対策課と連携を強化し、課題の共有と具体的な施策の検討を行う。 ○親に「しつけ」に関する指導ができる人材を育成し、その活用を図る。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○平成 26 年度小学校 5 年生、中学校 2 年生の状況としては、「平日・休日の学習時間」は共に県平均を下回り、特に、中学校では休日の学習時間が 12 分程度下回っている。</p> <p>○小中連動した「家庭学習の手引き」により、保護者と連携しながら家庭学習を充実させる取組みが定着しつつある。</p> <p>○目標協働達成校を中心に家庭・地域が能動的に学校と協働する取組みを行うことができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○学力向上会議、PTA 総会、学級懇談会、家庭訪問、ホームページ、通信などを活用して、児童生徒の実態を保護者に伝え、保護者と連携しながら家庭教育の充実を図っていく。</p> <p>○目標協働達成校 3 校（今津小・今津中・城北中）での、家庭・地域が能動的に学校と協働する取組みを継続する。</p>	3	C	学校教育課
<p>○9 月 13 日～15 日に子育て支援課主催の「CSP（コモンセンス・ペアレンティング）トレーナー養成講座」を実施され、教育委員会関係者からは社会教育委員 2 名、社会教育主事 1 名、社会教育指導員 1 名、社会教育課職員 1 名、指導主事 2 名が受講し、トレーナーの資格を得た。 （CSP・・・子どもに対する親のことばかけや行動を変えることで、よりよい親子関係を築いていこうとする子育て支援プログラム）</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>家庭教育における「しつけ」については、出生期、乳幼児期から青少年期に至るまで、それぞれの時期に適した親の学習が必要である。また、連続性を持った系統的な学習プログラムにより効果的な学習が期待できる。</p> <p>そのためには、福祉、医療部局と教育委員会の枠を超えた組織づくりが急務であると考えます。</p>	3	C	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
20	5	L	コミュニティーセンターの計画的建設	<p>建築年の古いものは部屋数も少なく、駐車場も狭いため地域の中核施設として多様化する住民のニーズに応えることが困難な状況であるため、老朽化した公民館は建築年の古い順に随時建設を行ってきている。現在、如水コミュニティーセンター・今津コミュニティーセンターの建設に着手している。住民のニーズに応えるため、如水・今津コミュニティーセンターの工事が滞りなく出来るよう準備を進める。</p> <p>○今津については建設工事終了が平成26年度末までとなっているので、それに合わせ備品類の契約し、竣工に間に合わせる。 如水については、平成26年7月に着工し、平成27年7月の竣工を目指す。</p>
21	6	M	中津市地域協育振興プラン推進事業	<p>子どもの育成を地域が支援するという活動自体は手段であり、本来の目的は、その活動を通して地域づくりを行うことである。事業の実施を通して、地域づくりに貢献できる人材の育成を図る。</p> <p>○今津校区をモデル校区に指定し、公民館が拠点となっている校区ネットワークを充実させる。 ○モデル校区において、地域づくりをテーマに熟議ができる場を創造する。 ○モデル校区の学校、家庭、地域の課題を掘り起こし、3者が共有することにより、より効果的な地域づくり活動を展開する。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>【今津コミュニティーセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 26 年 9 月外構工事着工 ○平成 26 年 10 月 15 日（本体・電気・設備）完成 <p>【如水コミュニティーセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 26 年 8 月 5 日起工式 ○平成 27 年 2 月外構工事着工 ○平成 27 年 3 月 15 日（本体・電気・設備）完成 <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今津コミュニティーセンター：平成 27 年 5 月 18 日竣工予定 ○如水コミュニティーセンター：平成 27 年 7 月下旬竣工予定 ○和田コミュニティーセンター（仮称）の建設候補地選考 	4	B	社会教育課
<ul style="list-style-type: none"> ○【学校支援活動数】2,290 回（昨年度 2,048 回） 【支援ボランティア実数】2,836 人（昨年度 3,081 人） 学校支援活動回数、特に学習支援活動が増加。 ○モデル校区の今津校区において、住民参加によるワークショップを通して、まちづくり協議会内に学校支援活動を主とする協育部会が出来た。 ○中津市「協育」フォーラムにおいて、今津校区のまちづくり協議会について、会長、コーディネーターが報告を行った。 <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今津公民館を拠点とした校区ネットワーク会議が「今津いきいきまちづくり協議会」内の部会において、校区の地域づくりに果たす役割を検証し、その効果を他校区に示すことにより、本事業の従来目的を再確認しながら、事業を展開していく。 	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
22	6	M	放課後子ども教室（土曜教室、放課後チャレンジ教室）	<p>公民館を中心として放課後中津子ども教室（「学びの教室」）は定着しており、課題となっている子どもの放課後対策としての機能を果たしているが、事業に関わる大人の高齢化や固定化、後継者が課題となってきたことにより、新規人材の発掘、確保、後継者の育成等、今後の活動の工夫が望まれる。</p> <p>そこで、地域団体、校区ネットワーク会議との連携、協力を促進し、新規人材の発掘、後継者の育成等を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担当者が各教室の現状を把握し、新規人材や新規団体を発掘、確保するための情報収集に努め、情報をコーディネーター会議を通して発信していく。 ○各教室同士の支援者、団体、校区ネットワーク会議との情報交換を密にし、支援者の共有化を図るとともに、現支援者の中から中心となる後継者を育成していく。
23	6	N	ワンパク！たんけん中津	<p>中津の歴史や産業について、中津ライオンズクラブの支援を受け、1泊2日の日程で現地視察し、見聞することによって知識を深め、ふるさと中津の再発見や愛着を持ってもらうことを目的に実施している。また、宿泊を通して他校児童・生徒との交流も図っている。しかし、参加児童在籍校の片寄りや三光地域、本耶馬溪町地域、耶馬溪町地域、山国町地域の小学校からの参加が少ないため、周知方法や学校との連携方法を検討し、下毛地区児童の参加促進と、「ワンパク！たんけん中津」と中津学びんぴっく（子ども中津検定）を合わせて実施することで、活動内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元に住んでいながら行ったことがない場所や体験したことがない活動などを取り入れ、地元の児童にとって、魅力のあるものにする。 ○募集時期に担当者が旧下毛地区の学校訪問を行い、児童の応募を促す。 ○活動の一環に事前学習を兼ねた「子ども中津検定」を行う。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課																								
<p>○放課後中津子ども教室（学びの教室含） 【実施校区…担当者 22 小学校区】</p> <table border="1" data-bbox="153 405 1082 685"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">放課後チャレンジ教室</th> <th colspan="2">土曜教室</th> </tr> <tr> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施日数</td> <td>1,225 日</td> <td>1,040 日</td> <td>611 日</td> <td>696 日</td> </tr> <tr> <td>実登録数（子ども）</td> <td>881 人</td> <td>687 人</td> <td>345 人</td> <td>792 人</td> </tr> <tr> <td>実人数（大人）</td> <td>469 人</td> <td>226 人</td> <td>84 人</td> <td>347 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○コーディネーター会議…年 4 回開催 ○啓発用ポスターを学校、公民館、市内商業施設に掲示した。 ○公民館事業講座（女性学級、生涯学習教室）、生涯学習大学の受講者へ、受講した知識・技能を地域の子どもたちへ還元いただくよう依頼することにより、新規人材の発掘へ結びつける手立てとした。 ○若年層の講師及びボランティアスタッフには将来のコーディネーター候補としての意識をもつように働きかけることによって、次世代の人材育成及び発掘へ結びつける手立てとした。 ○平成 26 年度については 1 教室において若年層の講師として関わっていた人材がコーディネーターとして教室の運営を支えた。また、コーディネーターとして、一線を退いた人材も教室との関わりをやめることなくその後も講師として子どもたちの指導にあたった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○事業に関わる大人の高齢化や固定化が課題となっており、引き続きの新規人材の発掘、確保等に向けての方法、今後の活動の工夫を検討していく。また、若年層講師にはコーディネーター候補としての視点をもって人材育成の力を注いでいく。</p>		放課後チャレンジ教室		土曜教室		H25	H26	H25	H26	実施日数	1,225 日	1,040 日	611 日	696 日	実登録数（子ども）	881 人	687 人	345 人	792 人	実人数（大人）	469 人	226 人	84 人	347 人	4	B	社会教育課
		放課後チャレンジ教室		土曜教室																							
	H25	H26	H25	H26																							
実施日数	1,225 日	1,040 日	611 日	696 日																							
実登録数（子ども）	881 人	687 人	345 人	792 人																							
実人数（大人）	469 人	226 人	84 人	347 人																							
<p>○活動内容…【1 日目】開会行事（市役所 3 階大会議室）→昼食（コアやまくに）→神尾家住宅見学→猿飛千壺峡、魔林峡（見学）→耶馬溪サイクリングターミナル→サイクリング（耶馬溪サイクリングターミナル⇄平田宿場跡）→紙芝居（紙芝居読み聞かせ）「山本登久・毛谷村六助」 【2 日目】旧永岩小学校内長岩城資料館見学→長岩城址たんけん→昼食（ふるさと料理）→閉会行事（旧永岩小学校）→耶馬溪アクアパーク見学など下毛地区小学生にとっても普段行かない場所を訪問地を選び、興味深い体験活動を組むことで参加者の満足度が高かった。 ○募集方法…旧中津地区 11 小学校区は各学校に配布。旧下毛地区 12 小学校へは直接訪問し、学校長に直接募集依頼した。 参加者数…50 人（70 人より抽選）（平成 25 年度：44 人）・校区別申込者数：旧下毛/全体：6 人/70 人</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○参加児童の在籍校の片寄りと三光地域、本耶馬溪町地域、耶馬溪町地域、山国町地域の小学校からの参加が少ないので、今後も周知方法、学校との周知協力を工夫していく必要がある。</p>	4	B	社会教育課																								

No	分類			目 標
	大	中	小	
24	6	N	なかつキッズ・サイエンス	<p>小学校4,5,6年生を対象に科学実験や自然体験学習を2日間にわたって実施している。しかし、参加者の学校区に偏りがあり、これまで参加実績の少ない学校からの参加児童の増加を図る。</p> <p>○市内全域から寄り付きが良くなるよう会場の見直しを行う。 ○これまで、中津地区の小学校及び三光地区、本耶馬溪地区の小学校だけの募集であったが、耶馬溪地区、山国地区の小学校にも募集を行う。</p>
25	6	M	三保小学校人形劇クラブの育成	<p>北原人形芝居保存会のメンバーが講師となり、三保小学校の4,5,6年生の希望者により人形劇クラブが運営されている。週一回、三保交流センターで、練習を行い、練習成果の発表として、毎年2月に開催される原田神社の万年願で演目を披露している。さらに年度のまとめとして、校区の介護福祉施設で発表し、利用者からたくさんの喜びの声を得ている。</p> <p>子どもたちにも発表を通して、地域のお年寄りの方々にこれからも喜んでもらおうという気持ちが芽生えている。今後も万年願以外にも人形芝居の発表の場をつくり、郷土を愛する心の醸成を図りたい。</p> <p>○老人介護施設やその他福祉施設等の慰問での上演ができるようにコーディネートする。</p>
26	6	N	福澤諭吉記念事業	<p>福澤諭吉の遺徳を顕彰し、それを継承するために福澤諭吉記念祭実行委員会が、毎年3つの記念事業（弁論大会、書写展、かるた大会）を実施している。各記念事業の周知を市民へ行い、一般観覧が可能な弁論大会と書写展への一般観覧者の増加と小中学校かるた大会への小学校低学年の出場チームの増加を図る。</p> <p>また、平成26年度は福澤諭吉が老万円札の肖像になって満30年を迎えるので、福澤旧邸保存会との連携を強化する。</p> <p>○福澤旧邸保存会との連携の強化 ○ケーブルテレビ等、マスメディアの活用</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○開催場所を、市内（三光地区を含む）全域から寄り付きのよい大幡コミュニティセンターに変更したことにより、リピーター及び新規参加者が増え、参加実績のない学校からも4年生の参加者があった。また、保護者の参加も可能であることを募集要件に加えたことで、保護者の参加が増えた。</p> <p>○参加者数：（ふしぎ実験教室：児童16人、保護者8人） （山国川たんけんたい：児童14人、保護者5人）</p> <p>○三光地区、本耶馬溪地区、耶馬溪地区、山国地区の小学校にも募集要項を配布したが、学校行事等とスケジュールが重なったこともあり、参加者の増加につながらなかった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○参加児童の在籍校の片寄りと三光地域、本耶馬溪、耶馬溪、山国地域の小学校からの参加を促すために告知方法、学校との周知協力を検討し工夫していく。</p>	4	B	社会教育課
<p>○クラブ児童は伝統芸能の練習を通して、行儀作法とコミュニケーションの取り方について学習することができた。校区内外の福祉施設の利用者に向けての学習成果発表については社会医療法人玄真堂介護老人保健施設「なのみ」の70人の利用者の方々の前で披露することができ、クラブ児童一人ひとりが万年願にむけての練習課題を持つことができた。練習成果の発表として、2月1日に開催された原田神社の万年願で演目を堂々とした立ち振る舞いで披露することができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○毎年恒例である2月に開催される原田神社の万年願での演目披露に加え、校区内外の福祉施設でのふれあい公演を万年願の前の時期に企画し、実施していくことで定着を図り、万年願前の中津市内福祉施設での公演などの発表の機会を増やしていきたい。</p>	4	B	社会教育課
<p>○記念事業の開催について、ケーブルテレビや市報を利用して告知し、周知を図った。</p> <p>○弁論大会では、約80人の一般観覧があり、昨年度に比べ、微増であった。</p> <p>○書写展は、410名の観覧者があり、昨年度に比べ、約100名増加している。</p> <p>○かるた大会出場チーム30チーム（昨年度31チーム）で、小学校低学年チームは1チーム減った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○三事業共に定着しているが、さらに市民への周知を図るための工夫が必要である。また、郷土にゆかりの深い福澤諭吉の偉業や考え方、生き方などを子ども達に伝える方策がもっと必要であると考えます。</p>	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
27	6	N	公民館活動における地域のふろさと学習	<p>各公民館において、地域の特色や住民のニーズに応じた独自の公民館講座が行われており、その中には、地域の歴史を学ぶ講座を開設している公民館がある。基本的には、公民館長が企画運営する講座であるが、計画段階に地元の歴史を学ぶ住民や公民館利用者が参画し、館長とともに企画、運営にあたっている。</p> <p>今後も、多くの地域住民が校区の良さを再発見できる活動を充実させて行く</p> <p>○公民館を中心としたネットワークを活かしたふろさと学習や事業を展開する。</p>
28	6	N	中津市生涯学習大学「中津学」	<p>平成 21 年度から中津に思い入れの深い方々を講師に招いた「中津学」を月に 1 回開催し、あまり知られていない中津ゆかりの人物や歴史などについて学ぶ機会を提供している。大学の受講生でなくても参加できるオープン講座形式をとっており、大河ドラマ放送に合わせ「黒田官兵衛」をテーマに開催した。</p> <p>○年間の講座内容を市民のニーズや時勢に合ったものにする。 ○生涯学習大学受講者の参加の促進。 ○受講カードを評価として効果的に活用する。</p>
29	6	N	「なかつ学びんびくく（子ども中津検定）」	<p>中津の自然、動植物、歴史、昔話、偉人、文化、産業と交通、お祭り・イベントなどを網羅した公式ガイドブックを作成し、平成 24 年度から市内小学校 4、5、6 年生全員に配布し、「なかつ学びんびくく（子ども中津検定）」を実施している。</p> <p>受験者数は、1 年目が 79 名、2 年目は 50 名と減少している。特に旧下毛地区の受験者がほとんどいないのが現状である。</p> <p>また、学校へのアンケート調査により、開催時期や場所を吟味したが、その効果は表れていない。</p> <p>○「ワンパク！たんけん中津」事業とタイアップし、事業参加者に受験をさせるとともに、子ども中津検定のみ参加者も募集する。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課												
<p>○ 公民館講座、高齢者・女性対象講座で地域のふるさと学習などに公民館利用者が積極的に関わった。</p> <p>【具体的な事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館講座として、南部、豊田、三保、今津校区の歴史を知る講座を実施。 ・ 各公民館で、「郷土史」に関する講座を生涯学習教室、女性学級等で実施。 <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○ 「黒田官兵衛」関係の学習機会を通して、郷土の歴史に関心を持つ市民が増えたことは評価できるが、放送が終了する中、各公民館においてそれぞれで実施しているふるさと学習が充実したものになるための魅力ある学習プログラムの開発が、今後重要となる。</p>	4	B	社会教育課												
<p>○年間受講者数 平成26年度 398人 (8回開催 1回平均 50人) 平成25年度 687人 (8回開催 1回平均 86人)</p> <p>皆 勤 者 平成26年度 10人 平成25年度 7人</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○ 黒田官兵衛に関する講座を数回入れて、受講者の確保を図ったが、それ以外の受講者数は非常に少なかった。今年度は、毎回50名以上を目標に生涯学習センターと連携を強化して、受講生を確保していく。</p> <p>また、公民館での郷土史サークルなどとも連携をとり、サークル生の受講を促す手立てを講じていく。</p>	3	C	社会教育課												
<p>○開催日を「ワンパク！たんけん中津」の実施日に合わせ、「たんけん中津」の参加者は、受験を必須とした。</p> <p>○受験者数 79名 (昨年度 50名)</p> <table border="1" data-bbox="188 1541 1054 1686"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【成績】1級 (ふるさとマスター認定)</td> <td>2名</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>2級</td> <td>8名</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>3級</td> <td>17名</td> <td>16名</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○公式ガイドブックについては、新4年生全員に1学期中に配布する。本年度も本事業を同じ目的を持つ「ワンパク！たんけん中津」とタイアップし、受験者の確保を行うが、単独の受検者数確保のため、学校との連携を強化する。</p>		平成25年度	平成26年度	【成績】1級 (ふるさとマスター認定)	2名	7名	2級	8名	18名	3級	17名	16名	4	B	社会教育課
	平成25年度	平成26年度													
【成績】1級 (ふるさとマスター認定)	2名	7名													
2級	8名	18名													
3級	17名	16名													

No	分類			目 標
	大	中	小	
30	6	N	偉人シリーズ、マンガ本の発刊	<p>地域に対する誇りと愛着の心を育み地域の活性化を図ることを目的とし、郷土の埋もれた偉人の業績を顕彰するため、シリーズでマンガ本を発刊している。本離れと呼ばれて久しいことから、子供はもちろん大人にとっても、読みやすいものとのことでマンガ本とし、隔年で発刊している。</p> <p>○平成 26 年度のマンガ本の候補は、1849 年中津城下での種痘とほぼ同時期に耶馬溪で種痘を施したことで知られている村上姑南または現神戸大学の創立委員で初代校長を務めた水島鋳也の二人を候補として選出し、内 1 名を漫画化し、5 千部印刷する。販売・配布は翌年度になるが、市内の各小学校から短大・大学校及び国内の県立図書館等に無料で配布するほか一部は販売する。</p>
31	7	0	利便性の向上	<p>市立図書館の開館時間は、平日午前 10 時から午後 6 時、日曜及び祝日は午前 10 時から午後 5 時となっている。過去に実施したアンケート調査では開館時間延長を望む声が 13%あり、県下公立図書館でもこのことが検討されている。また、年間開館日数は約 288 日で、アンケートでは休館日の削減を望む声が 7.4%あり、開館時間延長、と休館日削減の検討が必要となっている。ソフト面とハード面の充実を図り、だれもが気軽に利用できる「市民の本棚」となるような図書館づくりを目指す。</p> <p>○市立図書館のサービス向上を図るため、先進図書館の勤務体系等を詳細に調査し、その内容を参考にして中津市の実情に応じた開館時間の延長や閉館日数の削減について、検討を行う。</p> <p>○図書館システムの検討を行う。</p> <p>○施設設備の整備 (遮光対策・飲食コーナーの設置・研修室クロス改修等)</p>
32	7	0	学校図書館との連携	<p>従来、旧市内の小学校へ 1 学年に 100 冊程度の本を年 2 回(春と秋)団体貸出しを行っていたが、平成 25 年度より図書館からの一方的な事業でなく、学校の要望に基づき本や学習資料の提供を行っている。しかし、学校または学級ごとに利用状況に差がある。</p> <p>学校図書館司書を活用し、学校から図書館、図書館から学校への連携をより充実したものとする。また、学校図書館司書との交流を図る。</p> <p>○学校図書館との連携の充実を図る。</p> <p>○学校司書教諭及び司書との連絡会議を開催する。</p> <p>○学校図書館司書との交流を図る。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○村上姑南また水島鍬也の二人を教育委員会で検討した結果、水島鍬也を漫画化することに決定し、『明治大正期の教育者-水島鍬也』としてマンガを5千部作成した。販売・配布は平成27年度になるが、市内の各小学校から短大・大学校及び国内の国立や県立等の図書館に無料で配布するほか一部は販売する。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○隔年で発刊しているため、平成27年度は漫画化する人材を調査する。</p>	4	B	文化財課
<p>○県内図書館の勤務内容や開館時間等の調査を行い、それにより時間延長や休館日等の変更について検討したが、運営等詳細にわたっての検討が十分にできなかった。</p> <p>○図書館施設充実のため、遮光対策(ロールスクリーン新設・遮熱フィルム貼146.0㎡)・飲食コーナーの設置・研修室クロス改修・女子トイレの改修の整備を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○施設については、課題であった遮光対策や飲食コーナーを設けることができ利用者が過ごしやすい環境を整備することができた。引き続き、職員の資質向上や施設整備等を図り、多くの市民が利用しやすい図書館を目指す。</p>	3	C	小幡記念図書館
<p>○学校との連携を図るため、図書館にて1回会議を行ったほか、学校司書の会議に図書館職員が2回出席し、連携関係を深めた。 その会議を受けて、図書館にて修理本の講習会を行った。 また、除籍本の有効活用を図るため、要望のあった学校に必要な本の提供を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○会議だけでなく、日ごろより交流を図り、多くの学校にて図書館の蔵書等を今後も利用していくようにする。 また、除籍本の有効利用を促進する。</p>	4	B	小幡記念図書館

No	分類			目 標
	大	中	小	
33	7	P	芸術文化事業（木村記念美術館）	<p>美術館活動の周知徹底を図るとともに、より多くの方に利用してもらえるよう、来館者増に向けた取り組みを強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年4回の常設展に加え、企画展や美術関連イベントの開催を通じて、美術館事業の充実を図る。 ○美術館の出前講座を実施するほか、各種メディアを活用した積極的な広報活動を行う。 ○県立美術館のオープン（平成27年春）を見据えて、美術館活動に力を入れている県などとも協力をして多方面への情報発信を行う。
34	7	Q	展示施設の計画的な整備と利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ◇昭和13年に建設された歴史民俗資料館の建物は、経年劣化による傷みが各所で生じており、平成25年度に実施した耐震診断の結果を受け、耐震補強工事のための実施設計を行う。 ◇新歴史民俗資料館の建設のためにプロポーザル方式で設計業者を決定し建物及び展示設計に取り掛かる。 ◇歴史民俗資料館、村上・大江の両医家史料館、耶馬溪風物館の入場者の増加を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ○歴史民俗資料館の耐震診断を受け耐震補強工事の実施設計を行い、今後の利用方法を検討する。 ○新歴史民俗資料館の建設については、プロポーザル方式で設計業者を選定し、実施設計に取り掛かるが、展示方針や展示内容については当課が主となって検討していく。 ○歴史民俗資料館、村上・大江の両医家史料館、耶馬溪風物館の入場者の増加への対策として、HPでの広報活動や展示内容の変更等を行う。また寄贈に伴う資料の収集にも努める。耶馬溪風物館については、昨年と同様企画展を開催し、入館者増を目指す。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○年4回の常設展に加え、企画展「花崎宏志版画展」を実施。来館者数は、官兵衛関係の展示があった前年を上回ることはできなかったが、鑑賞授業（北部小、南部小など計4回）を行なうなど幅広い活動を展開することができた。</p> <p>○関係機関との協議（年5回）を通じて、新県立美術館（OPAM）と連携した事業の準備を進めることができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○県立美術館のオープンや「おんせん県おおいたデスティネーションキャンペーン」を来館者増の契機ととらえ、県などとも協力をして多方面への情報発信を行う。</p>	4	B	小幡記念図書館
<p>○歴史民俗資料館は、平成25年度に実施した耐震診断の結果を受け、耐震補強工事のため実施設計を行った。また、耐震補強工事については、新歴史民俗資料館開館までは現状を維持し、新歴史民俗資料館完成後は、新歴史民俗資料館の分館として、古文書などの見学に加え、文化財整理を実際に来館者に修復作業などを体験してもらった体験型展示、くつろぎの場や観光、他施設との連携も視野に入れた方法などを検討した。</p> <p>○新歴史民俗資料館の建設については、プロポーザル方式で設計業者を選定後、契約を締結し、実施設計に取り掛かっている。展示方針や展示内容については文化財課が主となって検討している。</p> <p>○歴史民俗資料館、村上・大江の両医家史料館、耶馬溪風物館の入場者の増加への対策として、HPでの広報活動やひな祭りや端午の節句のシーズンに合わせて展示内容の変更等を行った。また寄贈に伴う資料の収集にも努めた。</p> <p>耶馬溪風物館については、昨年と同様企画展を開催し、入館者増を目指した。医家史料館については、医家史料館叢書第14集を刊行した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○来年度は、大河ドラマ効果が薄れることから、入館者を維持していくための企画展等を積極的に開催することが必要である。</p>	4	B	文化財課

No	分類			目 標
	大	中	小	
35	7	R	史跡等整備 工事、説明 板・誘導サイ ン設置 中津城イベ ント実施	<p>平成 26 年度、大河ドラマ「軍師官兵衛」放送により、中津城下町・黒田ゆかりの地への観光客が増加している。文化施設の充実や情報提供により、中津を訪れた観光客の満足度をあげ、再び訪れてもらえる取組みが求められており、市内外の人々に、史跡としての中津城・中津城下町及び関連する文化財について情報発信し、文化財への理解を深めてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○城下町内において文化財を活かした観光ポイントを増やす(おかこい山整備、歴民土間改修による展示、まちなみ交流館での展示コーナー設置)。 ○ガイドブック・マップ等の増刷配布。説明板・案内板の充実。 ○城郭シンポジウムを開催する。 ○風物館にて、中津城及び市内の中世城館の展示を行う。
36	8	S	スポーツ施 設の計画的 な整備	<p>中津市ではスポーツ施設の老朽化が著しく、施設の機能維持のため日常の保守が重要である。また、「スポーツ振興」、「スポーツ観光」を促進する上でスポーツ環境の一層の整備が望まれており、今後は計画的な施設整備を進めていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各施設の状況を把握し、施設を利用するうえで支障を来しているものや、対処が必要なものについては早急に改善する。また、利用者への正しい利用方法についても周知する。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○自性寺おかこい山の整備を行った。歴史民俗資料館の土間を補強し黒田時代の建物礎石の設置を行った。まちなみ交流館に文化庁補助でケースを設置し交流館の展示充実を行った。</p> <p>○「中津城を知る」「黒田官兵衛ガイドブック」「中津城攻略マップ」を増刷し各所で配布した。城下町内に六ヶ所説明看板を設置した。</p> <p>○県内外の研究者と一般市民参加による城郭シンポジウムを開催、ガイドブック「黒田官兵衛と城」を発刊した。</p> <p>○風物館にて「戦国下毛の終焉～官兵衛、中津を創る」を開催した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○近年中津市は城下町のイメージが強調されているが、市内には多くの貴重な文化財がある。平成27年度からは城下町地区だけでなく、古代ゾーンや耶馬溪の史跡整備を行い、中津市全体の文化財の顕在化と価値の周知につとめる。</p>	4	B	文化財課
<p>○大貞総合運動公園野球場が完成、平成27年5月24日に柿落しを行ない、平成27年6月1日より供用開始を行う。また、中津総合運動場の測量も終了し、平成27年度からは永添運動公園として都市整備課で整備することとなった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○中津総合運動場は運動公園として施設整備をすることとなり、平成27年度に行なう土地の購入、球場の解体、実施設計について都市整備課と協議を進めていく。</p>	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
37	8	S	スポーツ施設の利用促進	<p>合併後において、各地域にはスポーツ施設が点在しているが、利用者のニーズに沿った、誰もが気軽に利用できる施設の整備がなされていない状況にある。利用度の高い施設については、休館日等の見直しを行ったが、全体的には利用形態や料金形態も含めて今後検討が必要である。</p> <p>○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりの為、日常の安全管理を強化する。また、スポーツイベントなどを誘致して、スポーツの面白さや楽しさを伝えることで、市民のスポーツの推進につなげ、延いては施設の利用促進につなげる。</p>
38	8	T	生涯スポーツの推進	<p>小学生はスポーツをしたくても地域や近隣にクラブがない、中学生は学校の部活が少なくなるなど、スポーツの環境や選択肢が狭まってきた。大人についても身体を動かすことのできる場所や環境が身近にないことなどから、日常的にスポーツを行っている人が少なくなっている。</p> <p>そこで、大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組む。</p> <p>また、様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れ合える機会を増やし、定住自立圏域住民のスポーツ振興を図る。</p> <p>○5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。</p> <p>○市内の体育施設を利用して、色々な大会、スポーツを誘致し、身近にスポーツと接する機会を増やす。今年度もオリンピックデーランを開催し、定住圏域住民を含め広く誰もが参加できるスポーツイベントとして開催する。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○利用度の高い施設の休館日を廃止することで、施設利用の促進及び施設利用者の利便性が図られ、より市民の立場に沿った施設運営をしたことにより、生涯スポーツの裾野を広げ推進を行った。</p> <p>○ダイハツ九州アリーナでは、多くの大会が開催され、市内外から多くの方が来場し、市民スポーツの振興を図ることができた。</p> <p>平成26年度ダイハツ九州アリーナ大会状況 市内の大会 24回、県大会 8回、九州大会（カップ戦含む）4回、その他のイベント 7回</p> <p>○サッカー場を利用したスポーツ合宿も行われ、東京の名門大学サッカー部が大規模な合宿が行われた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○今後も、引き続き各種全国大会レベルの大会やスポーツ合宿を誘致し、施設を有効利用することで、スポーツの振興並びに地域の活性化に繋げていきたい。また、今後も利用者ニーズに沿った施設運営を行っていく。</p>	4	B	体育・給食課
<p>○新たな総合型地域スポーツクラブの創設については、進展のない状況であるが、スポーツイベントについてはオリンピックデーラン等で多数の市民の参加が得られたことや、市内各地で開催するマラソン大会にも年々多くの市内外の出場者があり生涯スポーツの推進が図られた。</p> <p>八面山平和マラソン参加者数 平成25年度 629人 平成26年度 845人</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○総合型地域スポーツクラブの創設に向け、学校や地域などと協議を進めていく。また、既存のクラブ（洞門元気クラブ）についても、法人格の取得やクラブ運営のサポートについても協議していく。イベントについては、引き続き多くの市民が参加できる事業の開催を計画する。</p>	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
39	8	U	学校保健・体育環境の充実	<p>児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図るため、健康診断の完全実施及び事後指導の充実を図る。</p> <p>また、学校環境の調査点検と改善を行い、衛生環境の維持に努め、学校敷地内禁煙化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の健康診断の完全実施、要精密等の受診率を向上させる。 ○教職員ストレス診断システム実施率を上げる。 ○学校環境の点検と改善を関係課と連携して実施する。 ○学校敷地内禁煙の保護者及び地域への周知徹底を行う。
40	9	V	生産者(団体)との連携	<p>地場産野菜の利用推進のため、学校給食地産地消推進会議を開催して生産者等と協議を行っており、三光地域の生産者組合が生産した地場産野菜を、J Aを通じ各調理場に納入している。また、旧下毛地域においては、一部の野菜を福祉施設や小規模農家と契約して直接、納入している。</p> <p>今後も J Aや漁協と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量を拡大する。</p> <p>また、新たな生産者組織や後継者の育成等に関係機関と協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校給食地産地消推進会議を通じて、農政水産担当部署、J A、漁協、生産者等と地場産食材の利用拡大に取り組み、新たに農業委員会の担当者にも参加をお願いし、生産者の育成等に関する協議の場とする。地場産食材を活用した新献立を検討する。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○児童・生徒の健康診断は適切に実施できた。</p> <p>○教職員の健康診断は、100%（対象者 539 名）実施でき、要精密等の受診率も向上した。（87.7%→89.8%）</p> <p>○学校環境の整備は学校職員衛生委員会などの意見を踏まえ、教育総務課と連携して対応している。</p> <p>○学校敷地内禁煙の周知と徹底化を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○児童生徒の健康の保持増進を図る。（健康診断の実施、学童期運動器検診事業の継続など）</p> <p>○校長会などを通じて教職員健康診断及び再検査について周知徹底し引き続き 100%実施を目指したい。</p> <p>さらに、教職員の健康診断項目のより一層の充実を図りたい。</p> <p>○学校環境についても教育総務課と連携を取りながら対応できることについては早急に実施していきたい。</p> <p>○メンタル病休者早期発見・対応を目指し、教職員ストレス診断システム実施率 100%達成に取り組みたい。</p> <p>→学校心理アドバイザーの活用</p> <p>○要精密等の受診率を向上させる。（目標 100%）</p>	4	B	学校教育課
<p>○学校給食地産地消推進会議に、新たに農業委員会から女性部会の方たちに出席いただき、生産者サポート等について助言を受けることが出来た。</p> <p>○地産地消推進新献立として、耶馬溪粉茶を使用した磯部揚げや中津産イカのバジルソテーなどを栄養教諭等が考案し、2 学期以降から子供たちに提供し、高評価を得ることが出来た。</p> <p>○野菜の市内産使用割合を平成 25 年度実績 22%に対して、平成 26 年度は 23%と増加させることが出来た。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○地元産の食材単価が非常に割高で、地産地消を推進する上で保護者が負担する給食費の中で調整することが非常に困難になってきている。より多く子供たちに安全で安心な地元食材を提供できるように、工夫をしていきたい。</p>	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
41	9	W	児童生徒、保護者への啓発	<p>学校栄養職員や栄養教諭を中心に、学校給食担当職員が協力して学校の給食時間等を利用して給食指導を実施している。また、毎年1月の給食月間に講師を招いて保護者等を対象に記念講演会を開催している。</p> <p>引続き、学校の年間指導計画に基づき、食の重要性について学校と調理場が連携して給食指導を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校栄養職員や栄養教諭を中心に、出来るだけ多くの学校を訪問し、子供たちに分かりやすく食の重要性等を説明することで残菜の量が減るように指導する。 ○保護者に対して、試食会やPTA活動の場を通じてなど、様々な機会を利用して食育を推進する。
42	9	X	全調理場のドライシステム化及び機械・器具等の更新	<p>第一共同調理場(平成7年建築)、第二共同調理場(昭和46年建築)、三光共同調理場(平成14年建築)、本耶馬溪共同調理場(平成12年建築)、山国共同調理場(平成14年建築)の5つの共同調理場があり、第二共同調理場のみ衛生管理面で問題のあるウェットシステムで運用されている。また、各調理場の一部機械設備は耐用年数を経過し、更新が必要となっている。</p> <p>今後は第二共同調理場の第一共同調理場への統合に向けた増築改修工事を着実に進めるとともに、第二共同調理場の閉鎖により使用しなくなる備品で他の各調理場で利用可能なものを確認し、入れ替えを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第一共同調理場の整備改修工事を計画通りに進める。また、整備改修後に残る第二共同調理場の土地、建物の利用等を検討する ○各調理場の機械設備等の現状を確認し、新が必要と思われるものについては中期実施計画に計上する。 ○業務の効率化を図るため、設備操作等の研修会を適宜実施する。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○栄養教諭等が中心となって、市内全小学校で食育を行った。特に、新一年生には、「給食ができるまで」という学校給食係が作成した小冊子を全員に給食指導時に配布し、適切な指導を行った。</p> <p>○給食月間記念講演会は、現在大きな問題となっている食物アレルギーをテーマに、福岡女学院看護大学の西間三馨学長に講師をお願いして、エピペンの使用方法やアナフィラキシーショック症状を発症した際の対処方法等を説明していただき、出席者も初めて100名を超える非常に有意義な講演会となった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○近年は、食物アレルギーを抱えた児童生徒が増加傾向にあり、エピペン所持の児童生徒数も平成26年度は4名在籍し、食育の推進においても大きな課題となっている。このような状況下だからこそ、これまで以上に食の重要性を伝えつつ、アレルギー対応等を含めて食に関心を持ってもらえるよう栄養教諭等と連携しながら努力していきたい。また、平成27年度より、第一共同調理場の調理・配送業務を民間委託することになり、受託事業者も中津市と連携して様々な食育活動を行いたいとの意向があるため、協力して推進していきたい。</p>	4	B	体育・給食課
<p>○第一共同調理場の整備改修工事は、計画通りに完了し、平成26年9月1日より操業を開始した。</p> <p>○第二共同調理場に残った調理器具等については、他の調理場だけでなく、他部署での備品として移管する事で廃棄品を削減し、処分料を削減する事ができた。</p> <p>○市内の多くに設置されている牛乳保冷庫の更新等を中期実施計画に計上し、計画的に更新することとした。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○三光、本耶馬溪、山国の各共同調理場は、全ての施設が建設から10年以上経過し、機械設備等も耐用年数を経過して継続使用しているものが増加しているので、毎年設備の状態に注意する必要がある。平成26年度に着手できなかった本耶馬溪共同調理場のボイラー改修工事を行い、機械器具及び設備について、学校給食が円滑に運営できるように今後も現状把握に努め、計画的に更新を行う。</p>	4	B	体育・給食課

Ⅲ 学識経験を有する者の知見

元県立中津南高等学校校長 後藤 孔彰

はじめに

今日、IT技術や輸送能力等の向上により、経済活動はグローバル化し、社会は大きく変化してきている。このような状況の下において、教育行政には多くのことが期待されている。

一方、現実的には、限られた予算の中で施策を実施せねばならず、しっかりした人間観・教育観が必要とされている。

教育委員会が実施している各施策は、たいへん地道なものであるが、人の教育を幼児期から学齢期、そして成人へとつながる長期的なものとして捉え、そこに関係する家庭・地域・学校などを広く視野に納めながら教育行政の課題を考えて様々な取組みが実施されており、年度当初、設定した目標に向けて各課が連携・協力しながら努力を重ねている。

この点検・評価の実施を通して、市民に対する説明責任を果たし、透明性の高い教育行政が行われ、さらに信頼される教育委員会になることを期待する。

今回、高橋恵美子氏とともに施策の点検・評価を行った。その結果を踏まえ、長年、教育に携わってきた視点から評価と課題について、代表して意見を述べる。

1. 教育委員会の充実

教育委員会に対しては、市民の関心が高く、要望も多い中、開かれた委員会や学校づくりに努めている状況がうかがえる。今後も住民や保護者、学校現場の声を聞き、他県や他市の事例を十分に研究し、より広い視野で教育行政の改善に努めてほしい。

また、新教育委員会制度においても、教育行政の重要性を踏まえ、改善の努力を継続してもらいたい。

2. 施設設備（学校施設の安全・安心な環境整備）

喫緊の課題であった耐震化対策も前倒し予算を確保するなどして早期完了を図り、平成26年度をもって、対象施設の耐震化を完了している。加えて、施設整備に際しては、地元木材を使用し、情操教育に役立てる工夫など努力の跡が見られる。

今後は、学校施設の安全・安心を継続して確保して行くとともに、老朽化した学校施設の整備を進め、空調整備、トイレ改修など、児童・生徒をはじめ多くの人々が安全・安心で快適に学習等の利用ができるように教育環境の整備にも努めて行ってほしい。災害時には避難所にもなることを考えれば現状では、まだ完全とは言えないが、それに向けての努力を期待する。

3. 学びの基礎を培う学校教育（一人ひとりを大切にせる教育）

特別支援学級及び普通学級に在籍する特別な配慮を要する児童・生徒の学校生活を支援するため、それぞれの学校の状況に合わせて、補助員の配置がなされ、児童・生徒の特性や発達段階に応じてきめ細かい支援がなされており、今後も継続してもらいたい。

急速に進む国際化に対応できる人材育成のための取組みも行われており、今後のグローバル人材の育成の継続、発展に期待する。

また、学力の向上については、一人ひとりの生きる力に関係することであり、授業の改善や小中連携等様々な努力がなされている。しかし、顕著な効果が見られるまでには至っていない。各学校のデータ分析を行い、更なる取組みを行ってほしい。

近年の少子化が進む状況下において、学校教育充実のための小規模校の統廃合は避けては通れない。今後も、保護者や地域住民へ教育委員会の考えや統廃合を経験した学校の例を伝え、理解が得られるよう努めてほしい。

また、社会が変化する中、学校の危機管理能力の向上に努め、安全・安心な学習環境作りに努めてほしい。

4. 学校と家庭の連携

社会の変化が大きな時代であり、家庭や地域の教育力の低下が指摘されている。子どもの基本的な生活習慣が欠如しているといわれる要因の一つとして、家庭の教育力の低下があげられ、特に幼少期における「しつけ」や「自己肯定感の育成」は、その後の子どもたちの学力、体力の向上や道徳心の醸成に大きな影響を与えることになる。家庭教育力の向上のためにも、学校と家庭・地域や他の行政機関が連携し、家庭教育支援の仕組みづくりを行い、子どもたちを取り巻く環境の改善に繋げてほしい。

5. 施設設備（その他の施設整備）

各地区のニーズに応じた施設建設を計画的に進め、地元木材を使用してバリアフリー化に役立てるなどし、コミュニティーセンターは生涯学習や健康づくりの拠点になりうる所として広がりつつある。しかし、ハード面の環境整備が行われても、ソフト事業を如何に工夫し、実施するかが施設の有効活用に繋がっていく。他の自治体の例等も研究し、充実して行くことに期待する。

6. 学びつづける生涯学習（郷土に誇りを持つ市民）

社会の変化が大きな時代であり、家庭や地域の教育力の低下が指摘されている。校区ネットワーク会議が配置され、地域の方々による学校への支援活動を促すことも取組まれている。学校課題の多様化や特色ある学校づくりに対応するため、一層、学校と家庭・地域が連携するための取組みを支援し、その活動を通して地域づくりを行ってほしい。

また、平成 24 年度に始まった施策「学びんぴっく（子ども中津検定）」を是非、今後も継続し、郷土に愛着を持ち、先人の英知に学び、誇りに思う心情を育てるための取組みとしてほしい。

7. 文化芸術の香るまち（文化・芸術活動の推進）

子どもにとっての読書は、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、知識を深めるうえで欠くことの出来ないものである。読書から学ぶ楽しさや面白さを知らせるには、家庭や学校と連携を取り、長い時間をかけて、楽しさや面白さを感じて取ってもらう地道な作業も必要である。今後も充実した施策に期待する。

また、図書館が「市民の本棚」として、身近な資料提供機関として、役割が果たせるようサービスの向上に努めてほしい。

地域には有形や無形、調査済や未調査の多くの文化財があると共に開発や工事に伴う埋

蔵文化財の新たな発見や発掘など、それをどう整理保管し、活用するかなど課題がある。美術館や歴史民俗資料館等についても積極的に活用されることを期待する。

8. 健康づくり（生涯にわたるスポーツ振興「心豊かで健康な生活を」）

食えることと適度な運動は、健康づくりに欠かせないものである。長い人生において、一人ひとりが楽しめるスポーツを知ることは、心身の健康を保つ上で重要である。スポーツに身近に触れ、健康づくりを行うための設備も地域に作られ、有効活用されると共に、より多くの市民がスポーツに親しむためのイベントなども積極的に行われている。

また、利用者の多い施設の休館日を廃止し、利用者ニーズに沿った施設運営が、一部の施設で行われており今後も柔軟な対応に期待したい。

9. 健康な体づくり（安全安心でおいしい学校給食）

体づくりの基となるのが食事である。バランスの良い食事が家庭で減少している現在、学校がその補給の場になっている児童生徒も居るといのが現状である。児童生徒の体の発達・発育の程度や嗜好に合わせた量と献立が提供できるよう効率的な学校給食の運営に努めてもらいたい。その中で、JAや漁協等と協力し有機野菜や地域食材を使った給食が年毎に増えてきている。地場産の新鮮で栄養に富んだ安全で安心な食品を美味しく食べられることは、何物にも代えがたいものである。ただ、今後も安定した食材供給を受け続けるには、食材の価格や生産者の後継者育成も課題となっている。是非、地産地消が継続できるよう努力してもらいたい。また、施設面においても、その充実に向け、整備の努力を続けてほしい。

【総評】

学校教育も社会教育も時代の変化に対応して多くの課題に取り組まなければならない、中でも子どもの教育をめぐるっては、学校のみならず、家庭や地域が相互に連携し、教育力の向上をめざす必要性が高まっており、市民の教育委員会に対する期待は大きい。

施策を実施していくうえで、限られた人的、経済的資源をどう使うのか工夫していくことは、とても大切なことであると考え。これらを上手く組合せ、効果的に使うことで評価を高めることができる。今後とも、教育行政を進めて行く上で適切な予算や人材などの確保が必要であり、そのためには市長部局と教育委員会との連携が不可欠である。

新教育委員会制度により、市長部局と教育委員会がさらに連携し、教育行政を実施して行くことが求められており、教育委員会には、市長部局に対して適時・適切な要望や働きかけを行ってもらいたい。

また、教育という営みは、短時間で成果を得られるものばかりでなく、将来にその成果が実証されるものも多い。教育委員会には、将来の中津市の教育にとって何が必要なのかを見極め、各施策を着実に継続し、評価改善していくことを期待する。

幸いにも、中津市には、文化や歴史の中に“自主自立”の気概が残っている。これらの地域の力を活かしながら、将来の中津市、そしてこの国を担う人材が多く育成されていくことを願ってやまない。


IV おわりに

平成 21 年 3 月に策定した『中津市教育振興基本計画』においては、今後 10 年を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。


- ・自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・いつでも どこでも 学べる環境作り

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



自立する力



学習環境

平成 26 年度においては、9 項目を施策別基本目標として、42 項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）の PDCA サイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

